



曽爾村が目指す 持続可能な暮らしと地域づくり＋地域を担う人づくり



コロナ後の一步先を見据え、伝統的な生活文化を次世代に継承する、持続可能な地域づくり・人づくりをともに進めていただける企業とのパートナーシップ・協業を希望しています。

①山と漆プロジェクト

- ※日本国内で使われている漆の98%は中国産
- ※文化庁が、国宝・重要文化財の修復には極力国産漆を使用する旨の通知を発出
- ※サステナブルな天然素材としての注目高まる

(今着手できていること)
森林組合と協働で、漆の森の再生に向けた植樹・育林、漆に親しめる場づくり

- (課題)
- ◇10年後に奈良県の国宝・重要文化財の修復に使う漆を曽爾村から供給
 - ◇人材確保、プロダクト開発
 - ◇漆とともにある持続可能な暮らしの発信



漆の苗の植樹イベント

漆の名札づくりWS

②曽爾高原再生プロジェクト

- ※年間約50万人が来訪し、低山トレッキングなど楽しむ観光・アウトドアスポット
- (夏：緑の絨毯、秋：黄金色の夕景)
- ※高齢化で茅の保全・活用に黄信号
- ※村内に残る茅葺き民家はわずか1軒のみ

- (今着手できていること)
- ・有志「曽爾高原を守る会」が茅場の保全活動を実施
 - ・ススキ植生改善に向けた実証実験

- (課題)
- ◇茅に親しむ場づくり・教育プログラム
 - ◇茅を刈り出荷する仕組みの復活
 - ◇村内の茅葺き民家、伊勢神宮など歴史建造物への供給復活
 - ◇新たなプロダクト開発



曽爾高原のススキ

曽爾村の茅葺き民家

③人材育成プログラム

- ※令和元年度移住相談件数128件
- 「豊かな自然の中でものづくり・農業がしたい」
- ※ゲストハウス、キャンプ場、陶芸、新規就農など起業するケースが近年増加

- (今着手できていること)
- ・地域の未来を提案する仕事づくり・人材育成のための中間支援組織検討(課題)

- ◇曽爾村の地域資源を活用した、持続可能な暮らしの技(生きる力)を兼ね備えた人材の育成プラットフォームを構築する。
- ◇漆職人(木地師、漆塗り師、漆かき職人)、茅葺き職人・デザイナーのほか、農村部の課題解決を地域住民と協働で図るソーシャルベンチャー(社会起業家)を育成する。



2020年12月、ユネスコ無形文化遺産に漆かき・茅葺きなどの技術の登録が決定し、曽爾村の取組みに弾み



曽爾村にある国立曽爾青少年自然の家との協働により、子ども(曽爾村内及び村外)への教育プログラムとしても展開

独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立曽爾青少年自然の家